

溫泉旅館

銀婚湯



GIN-KON-YU

銀婚湯の由来

当館は先々代からさずかった銀婚湯という宿名のお陰で、結婚二五年目の銀婚式をお祝いするお客様からのご愛顧を特に賜っており、そのことを今日までの誇りとしております。

そもそも、上の湯温泉は落部川の中流中洲より湧出する名湯として、数百年昔から、先住民族のアイヌの人々が狩猟の折々に汗を流し、時には療養のために常浴しておりました。

蝦夷日誌によりますと、江戸時代後期の弘化三年（一八四六年）には松浦武四郎が浴し、初めて全国に紹介された旨の記録があります。

慶応四年（一八六八年）の戊辰戦争の折には榎本

武揚率いる幕軍の負傷者を湯治させたところ顯著なる効能があったため一躍有名になりました。

しかし、当時は熊笹で覆った無人の湯小屋で、温泉の湧出量もさほど多くなかったのでしょうか。

大正一四年五月一〇日、七飯峠下の川口福太郎が志あつて中洲を開掘し、熱湯の大量湧出に成功。温泉宿建設に夢をはせたのでした。

時あたかも大正天皇銀婚の佳日に当たつたため、福太郎の妻トネの発案で、自分たち夫婦の銀婚式を重ね合わせ、「銀婚湯」と命名。その後、困難もございましたが、トネの血のじむような努力により、今日の銀婚湯の礎が築かれたのであります。

時節柄、開業当初は湯治のお客様が中心でしたが、少しずつではあります「銀婚湯」という名の宿があることが世間に知られるようになり、今日では遠方からの銀婚祝いのご夫婦も含め、多くのお客様に足を運んでいただけるようになりました。

また、当館敷地内にはまるで夫婦のような樹木や岩が多数見受けられるため、銀婚湯に止宿すると末永く夫婦仲むつまじく幸せに暮らせる——。一つの頃からか、そんな嬉しい噂もささやかれ始め、近ごろは銀婚式をお祝いする方はもちろん、新婚さんのご利用も増えてきています。

新婚さんと銀婚さんが浴場へと続く廊下で会釈をしながら。そんな微笑ましい光景に出会うことも少なくありません。

ゆつたりとした時間の中で、滾々と溢れる湯につかり、四季折々の彩りを眺め、旬の幸に随喜す

寄り添うた

浴衣どうしが会釈を交わす

老いも若きも睦まじきかな



る。そんなご褒美を自分自身や苦勞を共にしてきたパートナーに贈ってみませんか？

私どもも心を込めてお迎えいたします。どうぞ、ふだん着のままでお越しくださいませ。



雅館



廊下 (吹き抜け)



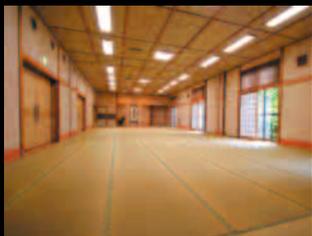
宴処「銀水」(30帖)



客室



売店



宴処「大樹」(80帖)



客室(次の間)と窓景



中庭



休憩所



本館の廊下

■施設の概要
 客室／和21室(うち16室がトイレ・洗面台付き)
 中広間「銀水」／30帖(20名程度のご宴会用)
 大広間「大樹」／80帖(70名程度のご宴会用)
 食事処「静山」、談話室、売店、休憩所など



フロント



食事処「静山」(テーブル席)



談話室



食事処「静山」(小上がり)

銀婚湯は北海道内では数少ない純和風の温泉旅館です。
 客室や湯殿はもちろん、玄関、廊下、階段から、食事処、休憩所にいたるまで、館内随所から和の風情、木の温もりを感じていただけることと思います。

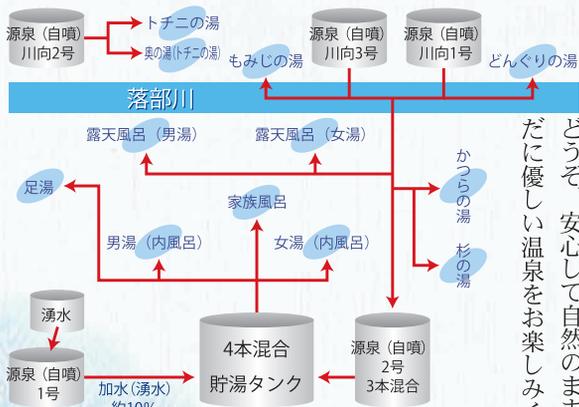
地元八雲町の特産品や当館のオリジナルグッズを扱った売店や吹き抜けの休憩所、暖炉のある談話室もございまして、湯上がりには館内を漫ろ歩いてみたり、中庭を望みながらご歓談されるなど思い思いにおくつろぎください。



露天風呂 (女湯)



大浴場 (女湯)「こもればの湯」



を劣化させる循環、濾過および人体に有害な塩素殺菌や水道水の混入は一切しておりません。どうぞ、安心して自然のままのからだに優しい温泉をお楽しみください。

当館の温泉は敷地内から湧出する五本の源泉を単独もしくは混合で使用しております。湯舟は男女別の大浴場、露天風呂、家族風呂など全部で11カ所ございます。泉質は弱アルカリ性のナトリウム・塩化物・炭酸水素塩泉など源泉別に微妙に異なります。源泉温度は60度〜95度と高温ですので、一部の浴槽は地下水を一割程度加水して適温化しています。湧出量は合計毎分一七〇リットル(自噴)確保していますので、温泉の成分

癒湯



足湯「かたらいの湯」



大浴場 (男湯)「湍流の湯」



家族風呂 (宿泊客専用)



露天風呂 (男湯)

隠し湯めぐり

当館の敷地内、散策路の途中などには「隠し湯」として遊び心満点の野天風呂が点在しております。
隠し湯はすべて「宿泊客専用の貸し切り風呂」となっておりますので、フロントに申し付けた上で専用の鍵をお持ちになって、ごゆっくりお楽しみください。



トチニの湯



かつらの湯



もみじの湯 (季節限定)



どんぐりの湯



杉の湯 (季節限定)



奥の湯(トチニの湯)

もみじの湯(秋)



悦膳

当館の食膳は既製品を一切使用しておりません。料理長が一品一品心を込めた手作りの品にておもてなしをいたしてまいります。

下の写真は夕膳の一例です。旬の素材にこだわっておりますので、内容は季節によって変更いたします。

また、宿泊日の前後二カ月間に銀婚式を迎えられるお客様（旧館は除く）は予約時にその旨お伝えください。

心ばかりのサービスをさせていただきます。ありがとうございます。



銀婚式のお客様用「夫婦膳」

※写真と実際の料理は異なる場合がございます



小川が流れる庭園、彩りを映す池、九万坪の敷地内を悠然と流れる落部川、どこか懐かしい吊り橋、樹齢一〇〇〇年を越えるイチイの大樹、三五トンの巨石をくりぬいた野天風呂、夫婦岩、ばったり、つつじ、遙か連なる山々…。

湯浴みの後に、食事の前に、のんびりと散策を愉しみたい方のために、一周一時間程度の散策路を整備いたしました。若葉が芽吹く新緑の季節から、一面銀世界の季節まで、四季折々の風景を満喫していただけることと思います。

情趣



ご案内

公共交通 ● JR函館本線、落部駅下車 ■ ご宿泊のお客様は少人数でも駅まで送迎致します(要予約)
 マイカー ● 国道5号線沿いの落部郵便局(上の湯温泉の看板あり)を山側に折れて約10km。道道落部厚沢部線沿い、右手 ■ 函館から65km(約1時間半) ■ JR八雲駅から28km(約35分) / JR落部駅からは10km ■ 道央道落部I.Cからは約15分
 ■ 札幌から約210km(中山峠経由で4時間前後)
 ご入浴 ● **700円**(お昼12時～夕方4時 / 月曜お休み)
 ■ ご会食も**3200円**から用意しております(要予約)
 ■ チェックイン / お昼1時 ● チェックアウト / 朝11時



日本秋湯を守る会

温泉旅館 **銀婚湯**

HP: www.ginkonyu.com

〒049-2566

北海道二海郡八雲町上の湯199

☎0137-67-3111

fax 0137-67-3355